

第60期 株主通信

2017年2月1日～2018年1月31日



アシックスタイガー大阪心斎橋

株主の皆様におかれましては、日ごろより格別のご厚情を賜り、厚く御礼申し上げます。

代表取締役社長

高橋 貴志



■第60期を振り返って

当連結会計年度(2017年2月1日～2018年1月31日)における我が国経済は、企業収益や雇用情勢が改善していることや、個人消費が持ち直していること等から、緩やかな回復基調が継続しました。当ディスプレイ業界の事業環境につきましては、企業の設備投資が緩やかに増加していることや、公共投資が底堅く推移していることもあり、堅調に推移しました。

このような状況のもと当グループは、中期経営計画(2016年1月期～2018年1月期)に基づき、安定・確実な成長を持續させるとともに、優れた価値創出で他を圧倒することを目標に、事業活動を展開してまいりました。

この結果、当連結会計年度の売上高は751億56百万円(前連結会計年度比6.2%増)となり、営業利益は45億87百万円(前連結会計年度比16.7%増)、経常利益は47億41百万円(前連結会計年度比15.2%増)、親会社株主に帰属する当期純利益は32億21百万円(前連結会計年度比22.7%増)となりました。

また、当連結会計年度の受注高は804億90百万円(前連結会計年度比10.4%増)となりました。

■中期経営計画の結果と新中期経営計画の策定

中期経営計画(2016年1月期～2018年1月期)の進捗につきましては、外部環境の後押しもあり、以下のとおり目標とする指標を全て達成することができました。

目標とする指標	営業利益40億円以上	連結ROE10%以上	配当性向50%以上
2018年1月期実績	45億87百万円	13.3%	53.8%

今後は、連結ROE10%以上、配当性向50%以上、営業利益率7%を目標に掲げ、右記のとおり新中期経営計画(2019年1月期～2021年1月期)を策定いたしました。

(百万円)

売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	ROE(%)
2019年1月期計画				
79,000	4,700	4,800	3,230	12.3
2020年1月期計画				
84,000	5,400	5,500	3,750	13.4
2021年1月期計画				
87,500	6,100	6,200	4,200	14.0

市場の活性化が見込まれる新中期経営計画期間中の需要増加を確実に取り込むとともに、2020年以降の環境変化にも対応できるように、引き続き、デザイン力の向上、生産基盤の強化、先端コンテンツの応用演出の強化、安全・高品質の追求、働き方改革および生産性の向上、以上5つのテーマに取り組み、持続的な成長と更なる企業価値の向上に努めてまいります。

■配当金について

当期の期末配当金につきましては、1株当たり21円(記念配当金2円を含む)とさせていただきます。既にお支払いしております中間配当金1株当たり15円を合わせまして、年間配当金は1株当たり36円となります。

また、次期の配当金につきましては、中間配当金1株当たり17円、期末配当金1株当たり17円の年間配当金1株当たり34円を計画しております。

株主の皆様におかれましては、今後とも、より一層のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2018年4月

商業その他施設事業

連結売上高 **442億 2百万円**(前期比 2.3%増)

連結営業利益 **25億39百万円**(前期比 28.8%増)

商業その他施設事業においては、市場環境は引き続き良好であり、大型の企業P R施設の他、ホテル、テーマパーク、オフィス等の新改装案件を多く手掛けたこと等から、売上高、営業利益ともに前連結会計年度を上回りました。



ダブルツリーbyヒルトン那覇首里城
(サンゴ柄デザイン提供:南首里琉染)

チェーンストア事業

連結売上高 **195億16百万円**(前期比 20.0%増)

連結営業利益 **11億45百万円**(前期比 19.8%増)

チェーンストア事業においては、アパレル分野、飲食店分野、その他専門店分野ともに堅調に推移し、また、習熟度が高まり、収益性も維持したため、売上高、営業利益ともに前連結会計年度を上回りました。



URBAN RESEARCH COCOSABEAR

文化施設事業

連結売上高 **107億92百万円**(前期比 0.9%増)

連結営業利益 **6億94百万円**(前期比 14.4%減)

文化施設事業においては、各種博物館・科学館等の案件を多く手掛け、売上高は前連結会計年度を上回りましたが、収益性については及ばず、営業利益は前連結会計年度を下回りました。



静岡県富士山世界遺産センター

その他

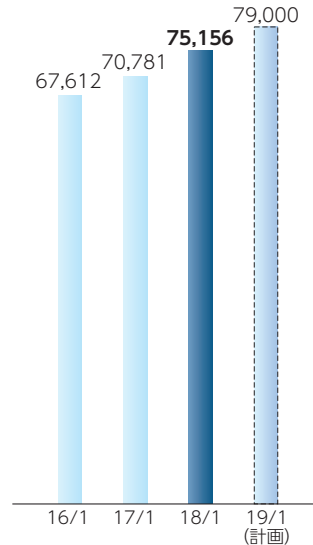
連結売上高 **6億45百万円**(前期比 5.7%増)

連結営業利益 **2億 5百万円**(前期比 14.9%増)

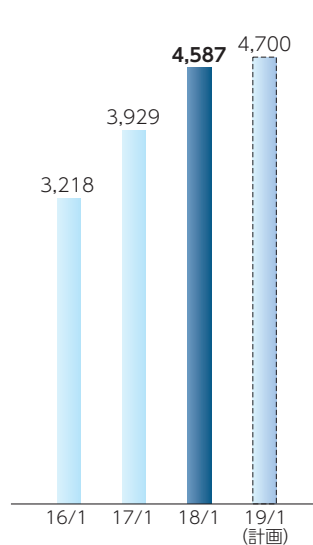
その他においては、ディスプレイ業以外の商業施設の運営管理、事務サービス等が堅調に推移し、売上高、営業利益ともに前連結会計年度を上回りました。

連結財務ハイライト

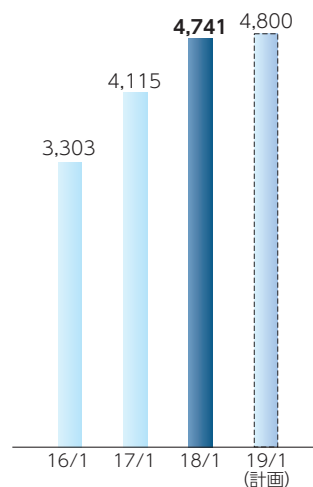
売上高 (単位:百万円)



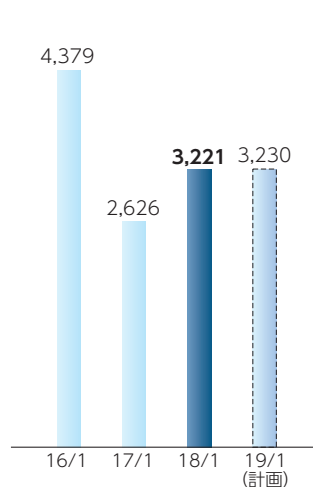
営業利益 (単位:百万円)



経常利益 (単位:百万円)



親会社株主に帰属する当期純利益 (単位:百万円)



(注) 2016年1月期については、日本社の土地の売却等により特別利益を計上し、親会社株主に帰属する当期純利益が高く計上されております。

連結財務諸表

連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

科目	前期末	当期末
	2017年1月31日現在	2018年1月31日現在
流動資産	33,023	35,203
固定資産	8,182	8,765
流動負債	16,170	16,901
固定負債	1,925	1,556
純資産	23,110	25,510
総資産	41,205	43,968

連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	前期	当期
	自 2016年2月 1日 至 2017年1月31日	自 2017年2月 1日 至 2018年1月31日
売上高	70,781	75,156
売上原価	58,444	61,791
売上総利益	12,337	13,364
営業利益	3,929	4,587
経常利益	4,115	4,741
親会社株主に帰属する当期純利益	2,626	3,221

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	前期	当期
	自 2016年2月 1日 至 2017年1月31日	自 2017年2月 1日 至 2018年1月31日
営業活動による キャッシュ・フロー	5,755	790
投資活動による キャッシュ・フロー	△479	△526
財務活動による キャッシュ・フロー	△1,905	△2,099
現金及び現金同等物の 期末残高	16,196	14,384

詳細な財務情報は、当社ウェブサイトIR情報をご覧ください。

アドレスはこちら▼

<https://www.tanseisha.co.jp/ir/>

ブランドの新たな世界観を発信する「アシックスタイガー大阪心斎橋」



対極的な機能を1つの空間内に融合

2016年9月、大阪・心斎橋にあるファッションビル1階に「アシックスタイガー大阪心斎橋」がオープンしました。大手総合スポーツ用品メーカー・(株)アシックス様が2015年に復刻したブランド「アシックスタイガー」初の直営店となるこの店舗は、国内・海外の主要都市に順次展開されていくコンセプトストアです。



変わることのない本質的なものにも新たな変化を取り入れていく「不易流行」というコンセプトのもと、ショールームの役割を担う「プロモーションエリア」と販売のための「リテール(小売)エリア」という対極的な機能を提供する空間で店内を構成。大理石のシューズウォールや最高級の牛革ソファ、6×3メートルの巨大な低反射ガラス、天井を対角線上に走るイエローライン、色とりどりの光を放つ展示什器、未塗装のガードレールといった際立つエレメント群は、1980年代のハイテクスニーカーをモチーフにしつつ、生まれ変わったブランドの先鋭的な世界観を体現しています。

多くの困難を克服したチャレンジングな試み

当初ご提案したのは、比較的标准な店舗プランと、コンセプトで挑戦的なプランの2方向でした。その結果、お客様に選ばれたのは後者のチャレンジングなプランでしたが、それゆえに施工では一般的なテナント工事にはないような困難に直面したのも事実です。

例えば、店舗前面を印象づける幅6メートル・高さ3メートルの巨大な低反射ガラスの設置に際しては、建物側の既存サッシの変更が必要でした。そのためビル側と協議を重ね、最終的に当社が施工も担うことになりましたが、横から吊り上げて枠に嵌める、というあまり前例のない難工事も綿密な計画と細心の注意で乗り切ることができました。また、ドット状に埋め込んだLEDが様々な色に光るラバー製の展示什器はそれまでになかったもので、アイデアを具現化するために幾度も試行錯誤を重ねた労作です。

そして、「最小限の使い方で最大限の効果を出してほしい」とお客様から難しいオーダーを投げかけられたのが、ブランドのポイントカラー・イエローの扱いでした。私たちはスクエアな空間を対角線上に切り裂くイエローラインを天井に走らせることで既成概念にとらわれない自由や未来への志向を表現し、お客様から高い評価をいただきました。

リソースを相互活用する事業部間シナジーの成功事例

復刻したブランドにかけるお客様の想い、そして、その想いに共鳴した当社のデザイナーたちの熱意に応えようと、メンバーが一丸となって多くの困難を克服し、「アシックスタイガー大阪心斎橋」は着工から1か月ほどでオープンの日を迎えました。ブランドの世界観を高い精度で表現できたことに対するお客様の満足度も高く、2017年1月に銀座にオープンした「アシックスストア東京」の設計施工業務、同年10月にオープンした国内最大の旗艦店「アシックス原宿フラッグシップ」の設計施工業務など、その後の受注獲得につながっています。



また、全世界に展開されるストアの原型となるこの店舗には、(株)アシックス様の各国のリージョンの責任者の方々も視察に訪れ、日本の高度な技術・デザインを肌で感じ、自国での展開に参考とされています。海外から見に来ていただけるような“お手本”を作ってお客様のお手伝いのできたことは、当社にとっても大きな収穫でした。

なお、本件は商業施設や企業プロモーションなどを担うCS事業部と、主に多店舗展開型チェーンストアに対応するSE事業部との社内コラボレーションで実現したプロジェクトです。これは、まず「アシックスタイガー大阪心斎橋」というコンセプトストアをしっかりと作り上げる仕事と、その後、同様の店舗を全世界へ水平展開していくお客様の事業構想を踏まえたうえでのチーム編成でした。豊富な実績を通じて培ってきた両者の高度なノウハウや技術が遺憾なく発揮された本件は、部門の垣根を越えて互いのリソースを活用し合う事業部間シナジーの有効性を証明した1つの成功事例となりました。また、機能と同時に、デザイン・ブランドを世界に発信するお客様の事業に、当社ならではのチカラで貢献できたプロジェクトだと考えています。

プロジェクトに携わったメンバー



(手前から)
プロジェクトマネジメント 紺野 慶
デザインディレクション 上垣内泰輔
デザイン 永原健太郎
制作 木村 翔平
制作 野坂 憲二
営業 岡 賢太郎

当社がテーマ館をお手伝いした「肥前さが幕末維新博覧会」が開幕しました

2018年の明治維新150年を記念して、「肥前さが幕末維新博覧会」が3月17日より開催されています。この博覧会は、歴史、食、文化、アートを、佐賀県内各地で10か月間にわたり楽しめます。



肥前さが幕末維新博覧会「幕末維新記念館」。幕末維新の世界へと来場者を惹き込む体感シアター。

当社は「幕末維新記念館」「リアル弘道館」「葉隠みらい館」の全3つのテーマ館の企画、設計、制作、施工、演出および運営計画のお手伝いをしています。特にメインパビリオンである「幕末維新記念館」は最新の映像や音響技術をいかした体感シアターを設置するなど、当社の演出技術のノウハウを最大限に発揮し、幕末維新期の佐賀の「技」「人」「志」をダイナミックかつドラマティックに紹介しています。

川越「音声ガイドツアー」の実証実験を終え、観光案内所のサービスとして本格始動しました

当社は昨年より、文化施設事業で培ったノウハウを活かし、川越蔵造りの町並み「音声ガイドツアー」の実証実験をおこないました。個人および団体観光客、インバウンド観光客に向けたこの取り組みは、多くの利用者から好評をいただき、このたび川越市の設置する観光案内所のサービスとして、本格始動しています。



まちをミュージアムのように楽しむ「川越音声ガイドツアー」。川越市内の観光案内所3カ所です。

今後は、本サービスを日本全国に広げ、博物館・美術館およびその学芸員の知識に裏付けられた、より深く、より幅広い情報による、質が高く豊かな観光体験の提供を目指します。

ウェブサイトのご案内

当社のウェブサイトでは株主・投資家の皆様に対して、企業情報や財務情報をはじめとして、積極的に情報開示を行っております。当社をよりご理解いただくためにも、ぜひご利用ください。



<https://www.tanseisha.co.jp>

会社概要 (2018年1月31日現在)

商号	株式会社丹青社
設立	1959年12月25日
資本金	40億2,675万657円
従業員数	908人(連結:1,157人)

役員 (2018年4月24日現在)

代表取締役会長	青田 嘉光	取締役 常勤監査等委員	河原 秀司
代表取締役社長	高橋 貴志	社外取締役 監査等委員	松崎也寸志
取締役常務	徳増 照彦	社外取締役 監査等委員	長谷川 明
取締役常務	戸高 久幸	社外取締役 監査等委員	新島由未子
取締役	中島 実		
取締役	小林 統		
取締役	篠原 幾徳		
取締役	森永 倫夫		

株式の状況 (2018年1月31日現在)

株式の総数	
発行可能株式総数	187,200,000株
発行済株式総数	48,424,071株
株主数	6,297名
大株主	

株主名	持株数	持株比率
日本トラスト・サービス信託銀行株式会社(信託口)	4,223千株	8.72%
丹青社取引先持株会	2,484	5.12
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	2,219	4.58
株式会社三井住友銀行	2,004	4.14
第一生命保険株式会社	1,907	3.93
ファンネックス・アセット・マネジメント株式会社	1,680	3.46
株式会社三菱東京UFJ銀行	1,482	3.06
日本生命保険相互会社	1,446	2.98
株式会社みずほ銀行	1,202	2.48
丹青社従業員持株会	1,140	2.35

株主メモ

事業年度 2月1日から翌年1月31日まで
 配当金受領株主確定日 期末配当1月31日/中間配当7月31日
 定時株主総会 毎年4月
 株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
 特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社
 同連絡先 東京都府中市日鋼町1-1
 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
 Tel.0120-232-711(通話料無料)
 上場金融商品取引所 東京証券取引所 市場第一部
 公告の方法 電子公告により行う
 公告掲載URL <https://www.tanseisha.co.jp/>
 (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

株主の皆様の声をお聞かせください

下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。

<http://www.e-kabunushi.com>
 アクセスコード 9743

いいかぶ 検索

●アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2か月間です。
 ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝(図書カード500円)を進呈させていただきます

※本アンケートは、株式会社 a2media(イー・ツー・メディア)の提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。
 ※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます、事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

●アンケートのお問い合わせ TEL:03-5777-3900(平日 10:00~17:30)
 「e-株主リサーチ事務局」 MAIL:info@e-kabunushi.com

撮影:ナカサ&パートナーズ、林 巧、フォワードストローク

ここを動かす空間をつくりあげるために。

株式会社 丹青社

〒108-8220 東京都港区港南一丁目2番70号
 Tel. 03(6455)8100(代表)
 Fax. 03(6455)8220(代表)

